

飛翔な日々

～編集委員が、「記者」としての立場を忘れ、自由につづるコーナー～

「日本語」

23生 飯尾 優一郎

世の中には、「英語なんか使わなくても生きていける」とか、「ずっと日本にいるから英語いらないし」とか言う中高大学生がいます。はい。僕もその一人です。
「てか、日本語が世界共通語になればいいじゃん」とか言うバカもいます。はい。僕です。

しかし、こんなに英語ばかりやっていいのかと疑問に思うんです。なんやかんやで僕も七年間英語教育を受けてきたわけですが、それがどれだけ身についているのかと問われれば……、まあ……、何とも言い難いんですね。

でも、そんな英語に比べて、日本語つまり国語というものは高校までしかありません。大学では、みんなできて当然と言わんばかりに学習しません。しかし、レポートを書かなきゃならない時はあるし、この「飛翔」を作っている僕たちのように、他の場面で日本語の使用を求められる時もあるわけです。そしてその時に、ちゃんとした日本語、自分の意図を正確に伝えられる日本語をつかえている人がどれだけいるのでしょうか？ 国のトップに立つ人が、「未曾有」を「みぞゆう」と読んでしまうことだってあったんですよ（笑）。

いくら国際化の時代と言っても、日本に住んでる以上は日本語を使ってコミュニケーションをとらなければならないの

だから僕らが真に学ぶべきなのは日本語なんです!!

日本語って奥が深くて（そもそも言語というものが奥深いものではあるんだけど）、ひらがな、カタカナ、漢字をメインに、アルファベットと数字にその他の記号、様々なものを使うから、習得は難しいけど、表現の幅ですごく広いです。だから、日本語を学べば自分でしっかり考え、表現できる人間になれるのではないかと思います。

いろいろと言いましたが、結論として僕が言いたいのは、

一、みんな活字を読んで日本語を学ぼう。

二、僕は（現在の）日本語が好き。

三、僕は英語が苦手だから勉強したくない。

ということですよ（笑）。

「ねこたつ」

23生 豊岳 実由

広大に通い始めて早いことにもう一年が過ぎます。

大学生になって初めての冬で、西条が半端なく寒いことを実感させられました。私は自宅生で、西条の隣の黒瀬から原付通学をしています。片道およそ三〇分かかる程度の距離で、似たような気候であるはずなのに、なぜか西条の方が寒い。いつか、黒瀬から西条に向かってみると、降っていた雨がだんだん雪になったことがありました。西条は強い。

私の家で飼っている猫も、三六〇度毛に埋もれているのに寒いみたいです。毎年冬が近づくと毛の量が増えています。だんだんモフモフしていった、ぱつと見ただの毛の塊です。そんな猫も毛だけでは寒さに耐えられないようです。帰宅した時に猫が玄関まで迎えに来るか来ないかで、今こたつがついてるかどうか分かります。主人よりこたつみたいです。悔しいです。こたつの周りを掃除する時、こたつ布団をめぐってどかしてこたつの下も掃除します。この間、それをやるうとして布団をめぐると、当然のように猫が入って邪魔だったんですが、いつもの事なのでそのまま掃除を続行していました。掃除機の音がうるさいためか、さすがに吸えそうなほど迫ると渋々退けます。掃除が終わって、こたつも戻して電源入れて、まったりしていると、猫が遠くから走ってくるのでもうかと思つたら、走りながらこたつに滑り込みました。どんだけ。でもやっぱり長時間入っていると熱いようで、時々手(前足)や頭がこたつからはみ出しています。そんな猫を見るだけで私はほかほか。

まだまだ寒い日が続きますが、とりあえず今年には猫に癒されながら乗り切ります。飛翔を手にとつて下さっている心優しい皆さんも、風邪を引かないように防寒はきっちりしましょう！では、読んでくださって本当にありがとうございました。

「国立ガンバレ！」

23生 加藤 正暉

今年一月三日にアメリカンフットボールの日本一を決める第六十五回「ライスボウル」が行われました。アメフトの伝統的な試合には「○○ボウル」ってつきます。このボウルは球ではなくすり鉢のボウルのことだそうです。なんでもアメリカではスタジアムがすり鉢状なことからいわれるようになったとか。このライスボウルは社会人優勝チームと大学優勝チームとの試合です。今年は社会人「オービックシーガルズ」と大学生「関西学院大学ファイターズ」の組み合わせでした。結果はオービックが逆転勝ちで二連覇を達成。このライスボウルが今の形になったのは一九八四年、三十七回大会からです。この大会、最多出場六回、最多優勝四回の大学はなんと「京都大学ギャングスターズ」で、京大は今も関西リーグ一部に所属しており私立大学にも引けをとらない強豪校です。今年の全日本学生選手権(各リーグ優勝校八校)に出場した国立公立大学は三校、広島大学・金沢大学・小樽商科大学でした。地方の大学になってくると学生数も規模も最も大きいのが国立公立大学になります。そして僕たちが地方のアメフトを引っ張っているという気持ちで全国大会という道に続いています。そして僕の所属する広大ラークーンズは中四国三連覇、打倒九州を目標に今年も頑張ります。応援よろしく願います。

「断食しました」

23生 大濱 高佳

訳あって、去年の暮れに断食することになりました。断食っていうのはその名の通り、一定期間食を絶つという意味ですね。古来より、宗教上の修行の一環として行うことが多いようです。特に、イスラム教のラマダーン月の断食は有名ですね。他にも、それぞれ、考え方が違うようですが、キリスト教、仏教、ユダヤ教、ヒンドゥー教でも断食は推奨されています。断食と聞くと、宗教的で厳格な雰囲気を感じますが、実際はそうでもありません。最近では、ダイエット効果や美肌効果のために断食をする女性が増えているようです。体の毒素を抜く『デトックス』という言葉をよく耳にするようになりましたが、このデトックス効果を期待して断食をする人も増えているようです。人間の体は、消化吸収するものがないと体にたまった毒素を排泄し始めるので、デトックスのための断食はとても体に良いのです。

今回、私が行ったのは三日間の断食で、水をとらないこともあるのですが、私の場合は水だけOKでした。中には、野菜ジュースを飲んでもいい断食というのもあるようで、結構楽にできるみたいです。

・一日目

いきなり断食するとおなかがびっくりするので、初日はじわじわ断食の体に移行させていきます。朝はトースト一枚で、昼は野菜ジュースを飲んで、夜は本格的に断食です。当然ですが、一日目からおなかは空いてきました。「ぐく、ぐく」と今までにないくらいおなかが鳴っていました。でもまだ、肉体的つらさよりも「なんか食べたいなあ」といった精神的な欲求のほうが勝っていました。まだまだ序の口です。

・二日目

朝起きてすぐに「朝ご飯食べたい」と思いましたが、すぐに断食中だったことを思い出してがっかりしました。昼ぐらいになると、体に異変を感じてきます。体がだるくて、頭がぼーっとしてきます。階段を上るのがきつくなってきました。断食を始めたことを後悔したのもこの頃だったと思います（笑）。はっきり言って、二日の夜が一番大変でした。体に血が回っていない感じがして、立ちくらみが激しかったです。例えるならばインフルエンザにかかったときのようなさでした。今まで経験したことがないような、自分が生きていることが不思議な感じになりました（ちょっとやばいか……）。

・三日目

二日目の夜はどうなるかと思いましたが、三日目に起きてみると意外なほど元気でした。体はだるかったのですが、意識ははっきりとしていて気分が良かったです。昼になっても、二日目のような悪夢は訪れず、夜になると、空腹であることも忘れることもありました。自分の場合は、二日目に山があったみたいで、それを越えれば比較的楽に過ごせました。

・四日目（摂食）

待ちに待ったご飯です。この日は、大好きな焼き肉を食べられるだけ……とはいかず、空腹の体を慣らすためにおかゆを少量いただきました。断食後の胃は機能が落ちてしまっていて、すぐにはたくさん食べられず、回復食と呼ばれるお腹にやさしいものを食べなければいけません。

それでも、断食後のおかゆは最高でしたね。まさに、体に染み渡るとい
うかんじでした。

・断食を終えて……

個人的には断食に参加してとてもよかったと思います。本当に「お腹
すいた」というのはどういうことなのか実感できました。自分が体験し
たことのないこの辛さを、毎日繰り返している人々がいるのだなという
現実をひしひしと感じました。いくら知識として知っていても、この飽
食の国において、私たちがどれだけ食に恵まれているかを実感すること
は難しいです。でも、それを少しでも実感したいと思うのであれば、断
食してみるとよいと思います。ダイエットついででもよいので、断食し
てみませんか？

「飛翔な日々」

23 生 西峯 礼子

飛翔で取材しているいろいろな人のいろいろな考え方に遭遇して、
自分の考え方に大きく影響しています。時々自分はどう考えているのか
が分からなくなり混乱してしまうときもありますが、きっと今はこれで
良いのだらうと思えるようにもなったので、ちよつとは成長したのかも
しれません。

あと、飛翔の編集委員を始めてから、雑誌や新聞のインタビュー欄に
目が行くようになりました。インタビューの裏側などを予想するのも最
近の小さな趣味です（笑）